

10	款	教育費	5	項	社会教育費	3	目	文化財保護費			
事業№	事務事業名	曳山車保存修理事業補助金							担当	部名	教育委員会
									課名	生涯学習・スポーツ課	
609	予算事業名	(文化財保存費)							部署	電話	59-8092
基本事項	事業期間	開始年度	平成 17 年度	終了年度	—			実施 方 (H26)			
	総合計画	施策の大綱	第 1 部 豊かな心を育み誰もが輝くまち								
		政策(章)	第 2 章 みんなが学び豊かな心を育むまちづくり								
		施策(節)	第 2 節 芸術・文化の継承と創造								
	根拠法令等	射水市文化財保存事業費補助金交付要綱									
事業目的	対象	補助金等 交付先	曳山車保存団体								
	意図	補助金等 交付目的	射水市内の文化財の保護を図るため (文化財の修理、保存及び継承)								
成果指標	事業目的を (意図に)して 達成する指 標	単位	H24実績	H25実績	H26実績	H27見込	指 標 名				
		件	3	4	3	0	曳山車修理件数				
事業内容	手段	補助金等 の受け 受ける 実施主 な活動	曳山車の計画的な保存修理を実施する。								
活動指標	補助金等 交付件数	単位	H24実績	H25実績	H26実績	H27見込	指 標 名				
		件	3	3	3	0	補助金交付件数				
備考	その他説明を 要する事項	曳山車修理助成については、保存継承を重視するため平成19年に要綱を改定し、補助率2分の1、助成上限額を50万円から200万円へ見直しを行っている。									
事業コスト	項目(単位:千円)		H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	事業コストに関する特記事項				
	直接事業費 (補助金等交付額)		6,000	6,000	5,226	0	平成27年度は、保存団体から修理要望が なかったため皆減となった。				
	(当初予算額)		(6,000)	(6,000)	(5,238)						
	うち臨時職員人件費										
	財源内訳										
	国・県支出金										
地方債											
その他											
一般財源		6,000	6,000	5,226	0						
個別評価	評価項目		説 明								
	妥当性 (a~c)	a	曳山行事は地域の誇る伝統行事であり、曳山車は伝統工芸技術の粋を結集して作られ、現在まで連綿と 引き継がれている貴重な財産である。								
	有効性 (a~c)	a	祭を継承するために、曳山車の計画的な保存修理は不可欠である。								
	効率性 (a~c)	a	曳山車は、市文化財審議会が審議した上で必要最低限の修理を実施している。								
総合評価 (1次評価)	評価結果 (A~C)	A	現行どおり事業を進めることが適当					総合評価 (2次評価)	評価結果 (A~C)		
	今後の方向性	改善内容・現行どおりとする理由等					評価委員会のコメント				
	廃止・休止	歴史を有する伝統行事である曳山行事を後世に 正しく伝承するため、計画的に曳山車の保存修理 を実施する必要がある。 また、「放生津八幡宮祭の曳山行事」は昨年県 指定文化財となったことで、曳山車の修理計画を 策定した上で、修理に対する県助成を要望してい きたい。									
	規模縮小										
	統合・連携										
	民間活用										
	負担適正化										
	やり方改善										
○ 現行どおり											
拡充											

平成 27 年度（平成 26 年度分）

評価項目チェックリスト

補助金事業

10 款	教育費	5 項	社会教育費	3 目	文化財保護費		
事業№	事務事業名	曳山車保存修理事業補助金				担当部署	教育委員会
609	予算事業名	(文化財保存費)				課名	生涯学習・スポーツ課
						電話	59-8092
評価項目	評価の視点	内容（該当は○、非該当は×） ※内部管理事務の場合、妥当性の判定は行わない（妥当性を a とする）					判定
妥当性	実施意義・市民ニーズ	① 社会経済情勢の変化や当初目的の達成状況、市民ニーズなどを勘案しても、事業の実施意義は低下していない。					○
	民間競合	② 民間と競合していない、あるいは事業の実施により民間事業者を圧迫していない。					○
	受益者・費用負担	③ 事業内容（手段）の受益者は、公益性が認められる場合を除き、一部に偏っていない。また、受益者負担あるいは市の負担は適正であり、公平性・公正性が保たれている。					○
有効性	政策体系との整合性	① 事業の成果（意図）が、上位施策の目標達成に結びついている（貢献している）。					○
	統廃合・連携余地	② 目的及び対象が類似・重複する事業はなく、他に目的を達成する手段はない、あるいは他に手段があっても、統廃合や連携の余地がない。					○
	成果の向上余地	③ 事業内容（手段）を工夫しても、成果を向上させる余地はない。					○
	事業継続による影響	④ 事業を継続することで、更なる成果が期待できる。					○
効率性	従事人員削減余地	① 現在の成果を維持しつつ、事業内容（手段）の業務プロセスの最適化等により正規職員の従事人員や業務従事時間を削減する余地はない。					○
	直接事業費削減余地	② 現在の成果を維持しつつ、事業内容（手段）の事務改善や契約方法の変更等により直接事業費を削減する余地はない。					○
	実施主体見直し余地	③ 民間活用・外部委託の拡大や市民協働事業化等による実施主体の見直しについての検討の余地はない。					○
評価結果	個別評価（a～c）	妥当性	有効性	効率性	総合評価（A～C）	評価結果	
	a	適合	a	適合	a	A 現行どおり事業を進めることが適当	

平成 27 年度（平成 26 年度分）

補助金調書

補助金事業

性質	交付先区分	個人	類型区分	団体運営費補助	事業費補助	○ 施設等整備補助	
		団体		政策的補助	格差是正補助	利子補給等	
	補助区分	定額		・本体の修理に要する経費 ・対象経費の2分の1以内の額 ・200万円を限度とする			
交付状況	項目	H24実績	H25実績	H26実績	H27見込	特定財源	項目
	補助金等交付件数	3 件	3 件	3 件	0 件	○	なし(市単独補助)
	補助金等交付額	6,000 千円	6,000 千円	5,226 千円	0 千円		国補助(%)
交付団体状況	うち一般財源	6,000 千円	6,000 千円	5,226 千円	0 千円		県補助(%)
	項目	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	事務局体制	項目
	交付先歳入決算額	23,173 千円	16,122 千円	13,385 千円			
補助金の占める割合	25.9 %	37.2 %	39.0 %				
交付先歳出決算額	23,173 千円	16,122 千円	13,385 千円				
次年度繰越額	0 千円	0 千円	0 千円				
事業内容	歳出に占める割合	0.0 %	0.0 %	0.0 %			
	団体構成員負担					法人会員数	
	会費負担					個人会員数	
事業目的	対象	曳山車保存団体					
事業内容	意図	射水市内の文化財の保護を図るため（文化財の修理、保存及び継承）					
	手段	曳山車の計画的な保存修理を実施する。					